

参加者の声

平成30年11月27日(火)出前講座 駅前公民館 10:30~12:00(参加者17名)

I. 講話 ~「知って安心、訪問看護・・・」~

訪問看護ステーションさくら 所長 畑中 勇二



- "病気になっても自宅で暮らしたい"・・・に約3割の方の挙手がありました。
- 「そうは言っても最後はほとんどの人が病院で亡くなるんじゃないの」・・・?
- 自分の母親も病院で一か月くらいずっと点滴をしてもらって亡くなった本当に体が浮腫んでいて、元気菜ころの様子とずいぶん変わっていた。点滴自体が負担だったんですね。
- ピンピンこりこりで亡くなりたい・・・の問いには、ほぼ全員の方が肯きながら挙手されました。
- 訪問看護と入院費用など、どう違いますか・・・?
- 延命治療はしたくないと思っていますが、誰に伝えておけばいいですか。
- どんな状態尾になったら訪問看護を使っていいのですか。具合が悪くなって連絡したらすぐ来てもらえるのですか。

講話終了後積極的な質問をたくさん頂き、お答えしながら皆様の色々な思いを聞かせて頂いた有意義な時間となりました。

是非、訪問看護の話をお願いしたいとの要請があり、今回2回目の講座をさせていただきました。「在宅で診てくれる人がいれば、自宅で亡くなりたい。とのご意見にほぼ全員の方が肯かれていました。熱心に興味深く聴いて頂き、講話後には、かなりたくさんのご質問がありました。本当に「ため」になる話だった。もっといろいろな人にしてください。今日の話聴いて、「一人になっても自分の家で暮らして行けるかも・・・と少し思った。」前向きなご意見を頂くことができました。

平成30年12月6日(木)出前講座 池ノ原公民館 13:30~15:00(参加者11名)

I. 「いつまでも自宅で暮らすために」・・・(在宅医療)

いちき串木野市包括支援センター 保健師 久保小百合

II. 「がんばりすぎない介護を応援します」

いちき串木野市医師会 在宅医療・介護連携推進事業 コーディネーター 南新 敦子

- 「元気だったら、いつまでも池之原の自分の家で暮らして行きたいと思います。」
- 「自分の家ほどいい所はないですよね・・・」皆さん深く肯かれていました。
- 「地域包括ケアシステム? 良く聞けどあまり分からないなあ・・・」
- 認知症になったら、日付とか分からなくなって行くのが本当に心配です。
- 「昔はこの地域も普通に家で亡くなっていましたよね」
- 私の母も92歳です。自宅で訪問看護を利用しています。本当に色々診てもらって安心です。
- 自分の親を施設に預けていますが、「やっぱり家がいいのかなあとか・・・」色々悩みました。

日常的に関係性の良好さが自然に感じられる雰囲気でも講話を聴いて頂きました。皆さんが永く池之原で暮らして行きたいという思いが強く伝わってきました。お互いに体の調子を気遣う会話も聞かれ、本当に和気あいあいとした印象のなか興味深く聴いて頂きました。

